

特別支援学校中堅教員による若手育成の実践と課題

—知的障害特別支援学校を中心に—

企画者	神田基史（帝京大学教育学部）
司会者	荒巻恵子（帝京大学大学院 教職研究科）
話題提供者	澤田隆視（埼玉県立上尾特別支援学校） 屋間友彦（東京都立調布特別支援学校） 石川敦士（東京都立練馬特別支援学校） 野毛美穂（神奈川県立平塚養護学校）
指定討論者	辻村洋平（東京都立八王子東特別支援学校） 中村 晋（帝京大学教育教育学部）

KEY WORDS: 中堅教員、若手育成、知的障害特別支援学校

【企画趣旨】

どの校種においても教員の世代交代が進み、中堅が少ない状況の中で若手が増えている。実践力の低下が懸念され、若手育成は各学校の大きな課題である。本シンポでは、現職教員として教職大学院を修了し、現場で中堅教員（中軸）として活躍する知的障害特別支援学校教員に自身の若手育成の実践と課題に関して話題提供して頂き、そのノウハウと課題を共有することを目的とする。

【話題提供者の趣旨】

①澤田隆視（埼玉県立上尾特別支援学校）

埼玉県の特別支援学校では、初任者が1校あたり6名の学校が多く、全県で200名前後の採用が10年程続いている。本校の教員数は、76名で約半数が採用から1校目となっている。初任者は担任数が、小学部31名、中学部11名、高等部29名の各学部に2名ずつ配置されている。私は中学部1名の校内指導教員を務めている。

初任者の研究授業は3回で、1回は自立活動で行うこと、朝の会や遊びの指導、作業学習は除くことになっている。計18回の研究授業を初任者同士で見合うことになっているため、研究協議も含めて日程調整の困難さが課題となるが、時間割変更をすることで対応予定である。

昨年度は研究協議に、初任者だけでなく若手教員の指導力向上を目指して、教員同士の対話を生み出す Round Study で取り組んだ。初任者以外の若手教員が研究授業を見る工夫も課題であり、学部研究の授業は全員でビデオを見てから研究協議を行った。

中学部では国語・数学のグループ分けに際して、初任者が研究授業のしやすさも考えて担当教員を決めるなどしている。

②屋間友彦（東京都立調布特別支援学校）

本校は知的障害特別支援学校小学部・中学部の学校である。教員数は小学部36名、中学部24名（令和3年4月1日現在）が在籍している。

本校では今年度から若手教員育成プランを作成し、「基礎的な力、児童・生徒・保護者との信頼関係、報告・連絡・相談、協働、計画的」などのKEY WORDSを基に若手育成を図っている。また、平成28年度からファシリテーションの考え方を活用した授業研究会を行い、授業力を中心に人材育成を行ってきた。今年度は一人2回の研究授業に加え、研究授業の参観回数を、教員の経験年数によって指定し、互いに授業を参観しあい、学び合うことで授業力の向上を図っている。

今回は本校の研究活動を中心とした人材育成の考えについて、昨年度までの成果と課題と、それを踏まえた今年度

の取り組みを話題提供したいと考える。

③石川敦士（東京都立練馬特別支援学校）

本校は開校10年目を迎えた地域型知的障害高等部単独校である。開校当初は、年次研者を含めた採用5年以内の教員が全体80名中約3分の1を占めていたため、授業内容を精査し、授業力の向上を主眼に研究を進めてきた。経験年数が少ない教員の研究授業だけに焦点化せず、中堅、ベテランも授業や教材等を公開する機会を増やし、互いに意見交換できる会を設けてきたことで、教員が入れ替わりながらも、授業力を保とうとする風土は培われてきた。

一方ここ2、3年は、学習指導要領の改訂、入学生徒の実態の中・重度化、教員数の減少、ICT機器の積極的導入等、授業力の向上に新たな策を取り入れなければならない状況となってきた。

このような状況を踏まえながら、本校での若手育成の実践とそれを支える中堅、ベテランの心境や葛藤、現在までの成果について話題提供する。

④野毛美穂（神奈川県立平塚養護学校）

前任校は、開校11年目を迎える比較的新しい特別支援学校で、「自立と社会参加」をめざした教育活動を展開してきた。ここでの、授業改善に関するシステムや研究の取り組みを紹介することで、人材育成についても言及したい。

一方、今年度着任した本校は、開校53年目を迎える歴史ある特別支援学校である。「地域を第2の教室に」を合言葉に、「共生社会」をめざして教育活動を展開している。ここでは、中堅教員を中心に、新しい研究に取り組み始めた。しかし、マンパワーに頼っている部分があり、持続可能な教育活動にしていくために、どうカリキュラムマネジメントをしていくかが課題である。

若手の育成は急務であり、どの学校でも取り組んでいるところであるが、その若手を育てる中堅教員を育てることが重要である。キーワードは「チーム」「組織的」と考えると、これまでの自分の取り組みを振り返りながら、人材育成の観点から話題を提供したい。

【指定討論者の趣旨】

①辻村洋平（東京都立八王子東特別支援学校）

話題提供者と同様の立場から質疑をお願いしている。

②中村 晋（帝京大学教育教育学部）

教員研修や学校研究への協力などを行っている立場から質疑をお願いしている。

(KANDA Motoshi, ARAMAKI Keiko, SAWADA Takashi, ISHIKAWA Atsushi, HIRUMA Tomohiko, NOGE Miho, TSUJIMURA Yohei, NAKAMURA Susumu)